

『闇の平蔵』 逢坂 剛 著

(分類:Fオ)

悪党や、手下たちさえ顔を知らない火盗改・長谷川平蔵。不届きにも「闇の平蔵」を名乗る者が現われて…。鬼平ファンに捧ぐハードボイルド時代小説第3弾。



『四月になれば彼女は』 川村 元気 著

(分類:Fカ)

はじめて付き合った彼女から手紙が届いた。そのとき僕は結婚を決めていた。愛しているのかわからない人と。時を同じくして、婚約者、彼女の妹、職場の同僚の恋模様にも劇的な変化がおとずれ…。



『恋糸ほぐし 花簪職員四季覚』 田牧 大和 著

(分類:Fタ)

花簪職人・忠吉は、和尚たちや少女さきと、麻布の大中寺で暮らしている。辛い体験に心を塞がれたさきは、耳が聞こえず、言葉を発しない。忠吉はさきの心を開く方法を思案するが…。



『幸せのプチ 町の名は琥珀』 朱川 湊人 著

(分類:Fシ)

都電が走るこの下町には、白い野良犬の“妖精”がいる-。生活感が溢れ、地味なくせに騒々しい迷路のような路地。そこに生き、通り過ぎた人たちの心あたたまる6つの物語を収録する。



『レールを渡る殺意の風』 西村 京太郎 著 (枝川所蔵)

(分類:Fニ)

東京の高層ビル街で老婆の他殺体が発見された。身元を突き止めた十津川は、京都駅から急行「丹後3号」で豊岡に向かうが、そこで待ち受けていたのは、若い女性の他殺体で…。鉄道推理の醍醐味が堪能できる全4作品を収録。



新着図書案内(11/27)

『独女日記3 食べて、忘れて、散歩して』 藤堂 志津子 著

(分類：914ト)

味わい深い変化と発見。そして愛犬「はな」との進化した対話。このトシになっても、初体験の日々だとは-。楽しくビターな、おひとりさまリアル・エッセイ第3弾。



『名を捨てた家族』 ジュール・ヴェルヌ 著

(分類：953ベ)

19世紀前半のカナダ・ケベック。圧政に苦しむフランス系住民の前にひとりの青年が現れた。しかし、人々の希望である彼には、けっして明かしてはならない過去があつて...。ジュール・ヴェルヌの知られざる歴史小説。



『果報者ササル』 J・バージャー J・モア 著

(分類：936バ)

ブッカー賞作家ジョン・バージャーと写真家ジャン・モアが、一人の田舎医者を通して人間と医療の本質を浮彫にした傑作ドキュメント。1967年刊のロングセラーに2015年版解説を加筆して初邦訳。



『パブロフの犬』 アダム・ハート=ディヴィス 著

(分類：140ハ)

ミミズに知能はあるのか？ 脳を半分に切断したら何が起きるか？ 善人は悪人になれるのか？ 体外離脱は絵空事か？ 科学としての心理学の発展に貢献した重要な50の実験を取り上げ、人間心理探究の歴史に迫る。



『読む時間』 アンドレ・ケルテス 著

(分類：748ケ)

寄り添って本を読む少年たち、ベンチで新聞を読む男性、本が積まれた窓辺...。20世紀の最も創造的で、影響力のある、多産な写真家の一人、アンドレ・ケルテスの古典的作品集。



新着図書案内(11/27)

『ザ・議論！「リベラルVS保守」究極対決』 井上 達夫 小林 よしのり 共著

(分類: 311イ)

天皇制と民主主義、戦争責任と歴史観、憲法九条と思想言論のあり方といった論争的な諸問題について、リベラルと保守、両派の最強論客が、真摯かつ誠実に、一切のタブーを排して徹底的に意見をぶつけあう。



『使ってみたい武士の日本語』 野火 迅 著 (分類: B810ノ)

「大儀である」「これはしたり」「恐悦至極」「ぜひもない」...。池波正太郎、藤沢周平などの名作や井原西鶴の浮世草子から厳選した侍言葉 206 語を解説。武家の流儀作法、剣技の躍動感、江戸風景が鮮やかによみがえる書。



『出版&映像翻訳完全ガイドブック』 イカロス出版 編 (分類: 801シ)

文化を訳すことができるのはプロの翻訳者だけ！出版翻訳と映像翻訳に分けて、その基礎知識から翻訳家になるために必要なスキル、デビューのルート、働き方&収入までを解説する。出版&映像翻訳スキルアップドリルも掲載。



『コーヒーの絵本』 庄野 雄治 作 平澤 まりこ 絵 (分類: 596シ)

豆を挽いて、ていねいにお湯を注ぐ。コーヒーがふくらみはじめ、幸せな香りが広がっていく。うん、今日もいい日になりそうだ-。おいしいコーヒーのいれ方がよくわかる、世界でいちばんやさしいコーヒーの絵本。



『はじめてのママ&パパのすくすく幼児食』 牧野 直子 著

(分類: 599ハ)

幼児食のきほんを説明し、時期別の献立とレシピ、子どもの脳と体を育てるレシピ、忙しいときのお助けレシピ、おべんとうとイベントのメニューなどを紹介します。偏食や体調が悪いなど困ったときのレシピも掲載。

